

盛岡市遺跡の学び館 第13 回企画展

陸と海の“大洞式土器”

— 盛岡の縄文時代晩期とその周辺 —



盛岡市遺跡の学び館
Study Museum of Archeological Site



盛岡市宇登遺跡出土 注口土器

盛岡市遺跡の学び館

盛岡市遺跡の学び館第13 回企画展

陸と海の“大洞式土器”

— 盛岡の縄文時代晩期とその周辺 — 図録

平成27年10月10日 発行

編集・発行／盛岡市遺跡の学び館

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1

TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605

E-mail iseki@city.morioka.iwate.jp

印刷／株式会社白ゆり

〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ6丁目1-50

TEL 019-643-6060 FAX 019-643-6065

ごあいさつ

1万年にも及ぶ縄文時代は、今から約2,300年前に終わり、弥生時代という新たな時代を迎えます。その終焉は縄文文化の結晶といえるほど華々しく、鮮やかなものでした。その文化は亀ヶ岡文化といわれ、亀ヶ岡文化を代表する土器は大洞式土器と呼ばれています。大洞式土器は、精巧緻密な文様でありながら、狂いのない文様が東日本全域に流布した土器です。水に濡れているかのような光沢を放つ土器や土偶には当時の工芸技術、美的感覚が溢れ、現代に生きる私たちをも魅了してやみません。盛岡市内においても手代森遺跡、上平遺跡、宇登遺跡、湯壺遺跡など縄文時代晩期の遺物が数多く出土する遺跡が発見されています。手代森遺跡では国重要文化財に指定された大形遮光器土偶、宇登遺跡では祭祀に使用したと思われる土面が発見されるなど盛岡の地にも亀ヶ岡文化が花開いていました。展示は盛岡市内および岩手県内より出土した縄文時代晩期の土器を中心に紹介し、縄文時代の遺物を通して我々が守り伝えるべき文化財の重要性を理解していただくことを目的に企画いたしました。

最後になりましたが、今回の企画展を開催するにあたりまして、多くの皆様から御協力を頂戴いたしました。ここに、深く感謝の意を表すとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年10月

盛岡市遺跡の学び館
館長 袖上 寛

目次

ごあいさつ

凡例

盛岡の縄文土器	4	特別講演会
亀ヶ岡文化と大洞式土器	5	講師／金野良一氏
縄文晩期の土器文様－大洞式の移り変わり－	6	演題／「縄文時代の終焉
海の縄文時代晩期－大洞貝塚から発見された土器－	7	－大洞貝塚の発掘調査－」
盛岡市内から発掘された大洞式土器	9	日時／平成27年11月8日（日）
		午後1時30分～3時30分
		会場／盛岡市遺跡の学び館研修室

開催要項

会期／平成27年10月10日（土）～平成28年1月17日（日）

会場／盛岡市遺跡の学び館 企画展示室

主催／盛岡市遺跡の学び館

後援／岩手考古学会 岩手史学会 岩手日報社

朝日新聞盛岡支局 読売新聞盛岡支局

毎日新聞盛岡支局 河北新報社盛岡支局

日本経済新聞社盛岡支局 産業経済新聞社盛岡支局

時事通信社盛岡支局 共同通信社盛岡支局

I B C岩手放送 NHK盛岡放送局 テレビ岩手

デーリー東北新聞社盛岡支局 めんこいテレビ

盛岡タイムス社 岩手朝日テレビ

岩手ケーブルテレビジョン エフエム岩手

ラジオ盛岡 月刊アキュート マ・シェリ 情報紙游悠

国指定重要文化財
手代森遺跡出土 遮光器土偶

凡例

- （1）本書は、平成27年10月10日（土）から平成28年1月17日（日）まで開催する遺跡の学び館第13回企画展「陸と海の大洞式土器」の図録である。
- （2）図録番号と展示資料の陳列順序は、必ずしも一致しない。
- （3）図録図版に付した名称は、番号、名称、出土地、名称の順で記した。
- （4）所蔵先の敬称等は省略させていただいた。
- （5）本企画展は館長袖上寛が総括し、企画・展示は北田牧子、菊地幸裕、室野秀文、津嶋知弘、花井正香、佐藤美沙、鈴木俊輝、日野杉潤子、及川葉里の補助を得て神原雄一郎、樋下理沙、鈴木由佳、今松佑太が担当した。
- （6）本企画展を開催するにあたり、下記の各機関・各位に多大なるご支援を賜りました。（敬称略）

機関

岩手県、岩手県立博物館、大船渡市教育委員会、大船渡市立博物館、二戸市教育委員会、盛岡市都南歴史民俗資料館

個人

市川健夫、菅野智則、金野良一、河野聡美、日下和寿、工藤やよい、佐藤嘉宏、柴田知二、鈴木めぐみ、武田良夫、玉川英喜、羽柴直人、藤井忠志、八木勝枝、吉田義昭、渡辺修二

主要参考文献

長谷部言人1925「陸前大洞貝塚（発掘）調査所見」『人類学雑誌』40巻10号

山内清男 1930「所謂亀ヶ岡土器の分布と縄紋式土器の終末」『考古学』1巻4号

吉田義昭 1956「大船渡市大洞貝塚の調査」『奥羽史談』第6巻4号

江坂輝弥 1956「大洞貝塚」社教シリーズ7 大船渡市教育委員会

山内清男 1964「日本先史時代概説」『日本原始美術』都南村教育委員会 1986「手代森遺跡－手代森小学校屋外運動場造成事業関連発掘調査」

盛岡市教育委員会 1989「上平遺跡群 上平遺跡－第4次発掘調査概報（遺構・土器）」

（財）岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 1986「手代森遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第108集

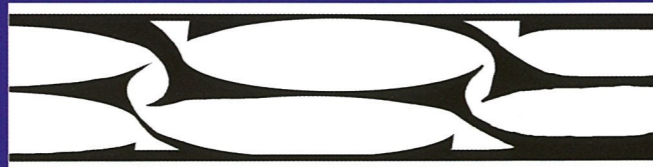
大船渡市教育委員会 2000「大洞貝塚－範囲確認調査報告書」

玉山村教育委員会 2004「宇登遺跡・田の沢D遺跡」岩手県岩手郡玉山村文化財調査報告書第22集

○表紙写真
宇登遺跡出土「注口土器」

○裏表紙写真
手代森遺跡出土「動物意匠付小形深鉢」

縄文晩期の土器文様—大洞式の移り変わり—



後期末葉宮戸Ⅲb式盛岡市新堰端遺跡出土



晩期前葉大洞B式盛岡市落合遺跡出土



晩期前葉大洞BC式盛岡市上平遺跡出土



晩期中葉大洞C1式盛岡市宇登遺跡出土



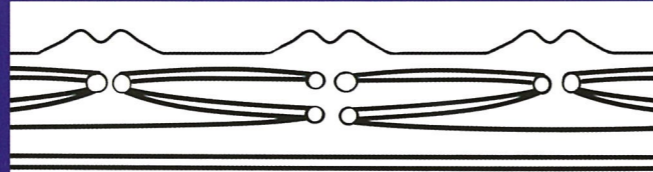
晩期中葉大洞C2式盛岡市宇登遺跡出土



晩期後葉大洞A式盛岡市宇登遺跡出土



晩期後葉大洞A'式盛岡市手代森遺跡出土



弥生時代前期砂沢式盛岡市向田遺跡出土

海の縄文時代晩期—大洞貝塚から発見された土器—

全国的にも「大洞式土器」で有名な「大洞貝塚」とはどのような遺跡なのでしょう。大洞貝塚は岩手県大船渡市赤崎町字大洞に所在します。昔から多くの土器や骨角器が出土することで有名な遺跡で、大正時代から本格的な発掘調査が進められていました。平成6(1994)年～平成11(1999)年にかけては大洞貝塚全体を知るための確認調査が行われました。その結果、縄文人の残した住居や墓地、貝のカラ、食

べた動物の骨や破損した道具を捨てた貝塚が4箇所(A・B・C・D地点)発見され、同時に数多くの骨や鹿角からつくった漁の道具や、煮炊きに使う土器などの遺物が発見されました。このことから大洞の地は国内屈指の「縄文漁師のムラ」が営まれていたことがあきらかにされ、その重要性から平成13(2001)年8月に国指定史跡として保存されました。



大船渡湾と大洞貝塚(大船渡市教育委員会提供)



大洞貝塚全景(大船渡市教育委員会提供)

昭和31年4月、慶應義塾大学・盛岡市中央公民館・岩手県立盛高等学校による合同の発掘調査がA・A'地点で行われました。

調査は、東北地方太平洋岸の縄文時代漁具を研究するために行われたもので、A地点と崖下のA'地点に発掘調査区を設定し、A'地点では第一貝層、第二貝層2つの貝層が発見されました。第一貝層より上部の地表に近い地層からは大洞A'式、第一貝層からは大洞C1式と少量の大洞BC式、第二貝層からは大洞BC式が主体的に出土し、第二貝層より下の地層からは後期の遺物が出土したといわれています。



A・A'地点



C地点



B地点



D地点



23-1



24-1



23-2



24-2

23 | 岩手県盛岡市 宇登遺跡出土
皿形土器 大洞C1式

24 | 岩手県盛岡市 宇登遺跡出土
浅鉢形土器 大洞C1式



25-1



26-1



25-2



26-2

25 | 岩手県盛岡市 宇登遺跡出土
浅鉢形土器 大洞C1式

26 | 岩手県盛岡市 宇登遺跡出土
皿形土器 大洞C1式



27-1



28-1



27-2



28-2

27 | 岩手県盛岡市 宇登遺跡出土
台付浅鉢形土器 大洞C1式

28 | 岩手県盛岡市 宇登遺跡出土
浅鉢形土器 大洞C2式



29-1



30-1



29-2



30-2

29 | 岩手県盛岡市 宇登遺跡出土
浅鉢形土器 大洞C2式

30 | 岩手県盛岡市 宇登遺跡出土
浅鉢形土器 大洞C2式